

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0561
施設名	烏山杉の子保育園
施設所在地	世田谷区南烏山2-2-3
法人名	社会福祉法人杉の子保育会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

テーマ：光

自分たちの身の回りにはどんな「光」があるか、光はどこから来るのか

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

どのような種類の光があるか、影の違いなど、園生活で身近な光に注目し、興味を持ちながら、友だちや大人と探求する。

2. 活動スケジュール

前年度3月より：各クラスの「光」に対する興味把握

4月：全体会議や各クラスにて子どもたちの年齢・発達・興味に沿った「光」の探究活動を提案、計画。子どもの姿をもとに「光」に関わる遊具の購入。

4～3月：光の探求活動実践。クラス会議やフロア会議にて毎回の振り返り。

子どもの姿や探求に合わせ、「光」に関わる遊具の購入。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

・年間で子どもの「光」に対する興味関心に合わせてライトテーブルなどの器具、クリア積み木などの遊具、その他保育材料の購入。

・購入した遊具・器具はしまい込んでしまうのではなく、子どもが見える位置に置いたり、コーナー保育にて常設したりして、興味が湧いた時に遊べるように設定。

・活動記録のためのデジタル機器の整備。

・保育ドキュメンテーションにより、保護者への活動共有。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

遊びの環境に設定した遊具・器具を使って、友だちや大人と一緒に「光」であそびを楽しみながら、遊具ごとに「光」の反射や透過の違い、出る色の違い、光のゆらめきなどに興味を示して探求したり、年長クラスでは光を使った表現活動に発展し、保護者に見てもらったりする。

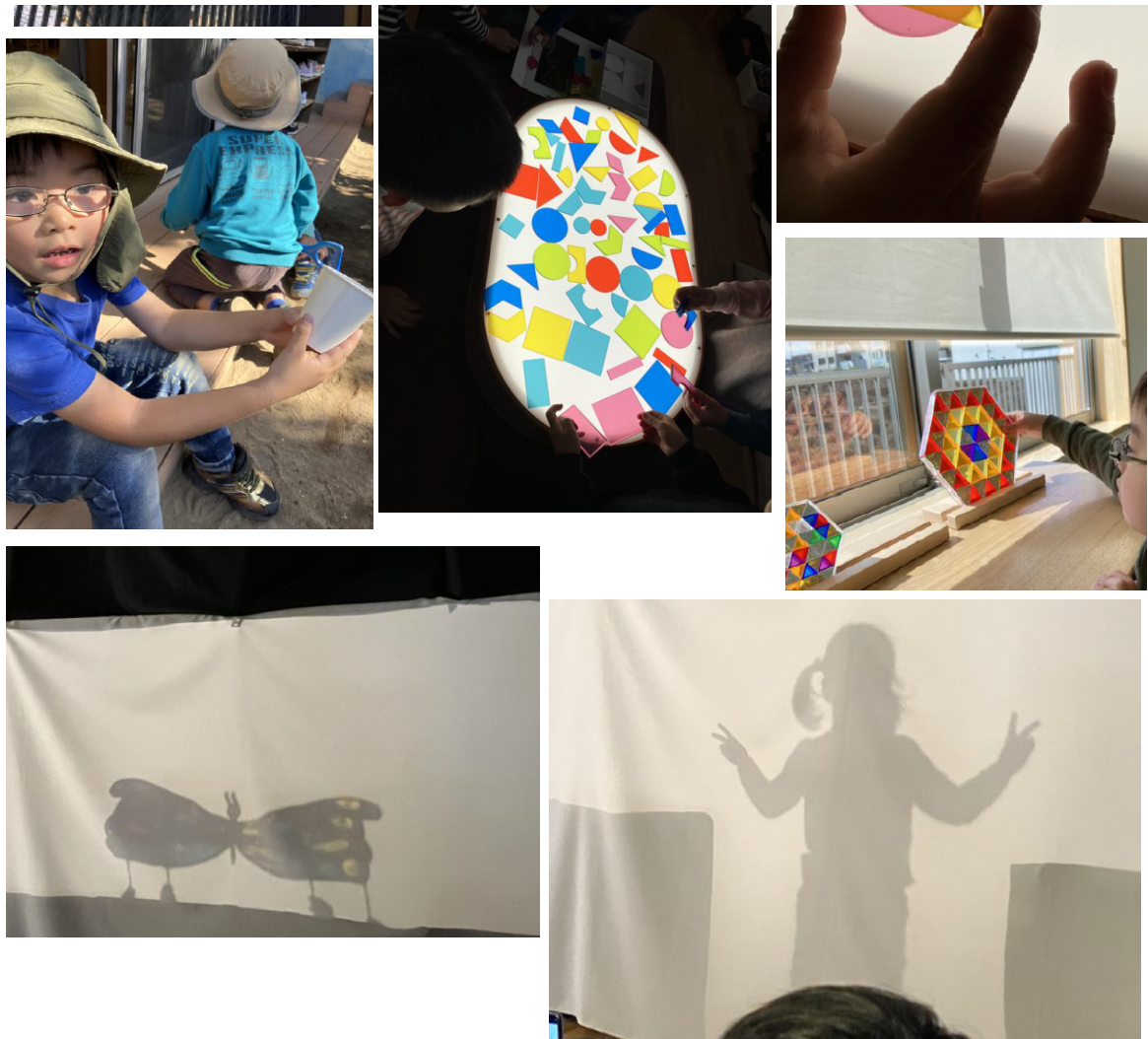
<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

2歳児や一時保育利用の子どもたちは、窓から差し込む光がクリア積み木を透過することで、部屋のあちこちに「色がつく」ことを発見したり、積み木を動かすことで光が動くことを発見し、不思議に触れながら光を追いかけていた。

4, 5歳児は「ライトテーブル」を使い、アクリル積み木を使って色の綺麗さ、いろいろな形の面白さに気づいていた。積み木を動かすうち、積み木を重ねると色が変わることを発見。ドキドキワクワクしながら積み木を重ね、発見した喜びを友だちと共有していた。5歳児は光がもたらす「影」にも注目。コップに映る影、積み木の影などで遊ぶうち、ペープサートを使った影絵劇に発展。保護者も招いての「表現の会」では、クラスで大好きな絵本のお話をモチーフにペープサートで影絵劇を披露した。





5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

最初は大人が遊具や器具の基本的な遊び方や使い方を見せ、活動が広がらないようなら、もう少し提案するべきか、などと考えていた。しかし実際は、子どもたちが遊具でじっくり遊びこみながら、一つ一つの特性を知ったり、遊具と光を出会わせることで面白さをどんどん発見し、更に何が出来るかを自分で考えたり、発見の嬉しさを友だちと共有し、友だちの思いついたことに共感しながら一緒に楽しんだり、別のアイデアを出しあったりして探求を深めていた。

遊びながら「光」に触れる中で、「なんでだろう」「なんでこんなことになるんだ?」「どうしてこうなるんだ?」と、子どもながらに自然現象の不思議にも気づき、誰かに聞くのではなく、自分で遊具や器具を動かしながら、納得するまで考えている姿も印象的であった。

年長クラスでは、自身の中で納得するまで遊び、友だちとも楽しんだ後は、「パパ・ママに見てもらいたい」と自分たちの探求を外に表現する意欲にも発展し、実現のために、クラスで何度も対話を重ね、道具を準備し、必要なものは大人にお願いし、自分たちの思いを表現する舞台にまでこぎつけ、達成感に満ち溢れる子どもたちであった。子どもたちの遊びの探求のエネルギーに驚かされるとともに、まわりの大人たちが、遊びから学ぼうとする子どもたちにどれだけ寄り添い、環境を準備できるかの大切さを再認識させられた。